

高松支部 活動報告

1 研究主題

「自ら学び、自ら考え行動する生徒の育成」
～さまざまなメディアを活用し、
主体的に学習する生徒の育成～

2 はじめに

インターネットに代表される情報の通信は、生活の中で普通に使われ、便利さを享受できる反面、負の部分が生徒に影響を与える場面も増えている。特に携帯電話の普及は、生徒間のトラブルを生んだり、ときには犯罪に巻き込まれることも心配され、正しい利用の仕方やモラル教育を進めることが急務である。

また、我々は様々な情報をコンピュータを用いて処理している。昨年度も個人情報や公務情報の取り扱いと管理について研修を進めたが、今年度も引き続き研修した。また、USBポートからのデータの読み書きを制限するソフトウェアも導入され、きちんとした情報の管理が進められた1年間でもあった。

加えて、平成24年度放送教育四国大会(高知大会)で、高松地区が実践発表を行うために、各校で実践を積み重ねてきた。

このように、取り組むべき研修や実践が多く、今年度も、情報管理グループ、情報モラルグループ、情報教育グループの3グループに分かれて、グループ単位で研修や実践を進め、研究主題に迫ろうとした。

3 研究の概要

(1) 第1回主任研修会

(4月19日 一宮中学校)

- ① 昨年度の報告と今年度の計画
事業報告 会計報告 役員選出 事業計画
- ② 研究主題の決定
- ③ 研究組織の決定(グループ分け含む)
- ④ 研究計画の決定

(2) 第2回主任研修会

(6月15日 一宮中学校)

- ① 研究主題と研究内容について
- ② 放送教育四国大会の発表等について
- ③ 情報モラル指導に関する討議と情報交換



【主任研修会の様子】

(3) 夏季研修会(8月3日 eトピア・かがわ)

① 情報モラル指導研修

- ・ フェイスブックやツイッターなど、メディア最新情報とその現状
- ・ マナーやモラルなど、インターネット上のICT活用の注意点
- ・ その他、ネット利用に関すること



【夏期研修会の様子】

- (4) 第3回主任研修会
(9月14日 一宮中学校)
- ① 製品紹介 CASIO 3Dプロジェクト
 - ② グループごとの発表(研究の中間発表)
 - ③ NHK放送コンテストについて
 - ・ 審査の様子と優秀作品の紹介
 - ④ 県夏季研修会の反省
- (5) 第4回主任研修会
(11月24日 一宮中学校)
- ① 製品紹介 設置型プロジェクター
 - ② DynamicBoot2でのウイルス対策ソフトのアップデート
 - ③ 各グループごとの中間発表
- (6) 第5回主任研修会
(2月22日 一宮中学校)
- ① グループごとの本年度の成果と課題について発表
 - ② 23年度のまとめと反省
 - ③ 24年度の研究、研修についての情報交換と計画案

4 研究の内容

(1) 情報管理グループ

① 各校の現状

引き続き、情報管理に関する定期的な注意喚起が不可欠である。喚起は教職員に対するものと、保護者に対するものとに分けられる。

前者は職員会・現教での啓発によって情報管理の重要性を意識し続けさせることが肝要で、各校ともに定期的な啓発が行われている。また、各校の担当者には長期休業中の研修会を企画し参加を促している。それにより情報管理の意識は以前よりも確実に改善されている。個人情報の漏洩があれば大きな問題となるため、USBポートの利用を制限するソフトウェア SKYSEA も導入され、情報漏洩が発生しにくい環境が整いつつある。

後者は、授業参観や研究授業の機会を利用して啓発をしたことに加え、警察などの協力を仰ぎ、長期休業前後の全校集

会で講話したり、懇談会で配布する資料の提供を受けたりした。

② 今後改善すべき課題

ア テストを持ち帰り、自宅で仕事をする職員が多い。勤務時間内に処理しきれずやむなく持ち帰らざるを得ない現状がある。個人情報管理の観点ではこれも規制の対象である。職務を効率化し、個人情報を持ち帰らなくてすむような工夫が必要である。

イ 未だに持ち出し禁止の情報をコピーして持ち帰る教職員がいるらしい。教職員は、社会的に非常に重要な個人情報を扱っているという自覚を持つことが大切である。日々の様々な職務の遂行に責任があり、確実な情報管理を徹底しなければならない。来年度以降の教育計画は授業数も増えてさらに繁忙となるため、情報管理の徹底に危機感を抱いている。

ウ 学校から家庭に向けての情報管理の啓発は少なく、生徒と保護者が一体となつての共通理解が進んでいない現状がある。家庭では、携帯電話からインターネットに至るまで「保護者と同等の権利」で使用している生徒が多く、引き続き生徒にも保護者にも個人情報の管理について指導しなければならない。

③ 提言

ア TENS経由の情報ネットワーク網の整備と強化

- ・ 教職員(約40名)が自宅から一度にアクセス可能なブロードバンド通信網の整備。
- ・ 校務データバンクのクラウド化とそれに伴う各校サーバーの統合。
- ・ 堅牢かつ単純な暗号認証システムの採用。
- ・ クラウド化に合わせた、バックア

ップシステムの構築と管理。

やむを得ず個人情報の持ち出しをしている現状を考えると、個人情報の漏洩防止には在宅でも校務を遂行できるネットワークシステムの構築が求められる。クラウド化やハッキング対策等の費用も必要だが、個人情報の紛失・漏洩によって失われる損益や社会的信頼度の低下を考えると必要な投資であり、対費用効果も高いと考えられる。

イ 学校行事の運営の改善

- ・ 中間試験や期末試験の最終日を午前中授業とするなど、教員の採点や評価にかかる時間の確保をする。
- ・ 現職教育や市、県、各種研究大会の開催を縮小し、勤務時間内に校務処理できる時間を確保する。
- ・ 生徒指導、進路指導、情報処理等の人員を増員し、教員の校務負担を軽減する。

学校現場で個人情報の管理を徹底させるためには、膨大な校務の処理に追われた結果、個人情報をやむなく自宅に持ち帰り情報漏洩につながっているという状況を解消する教育行政の施策が必要である。部活動についてもあり方を論じ、教職員の負担軽減が急務である。休日出勤に頼る対処法では解決にならない。

(2) 情報モラルグループ

① 学校で誰もが情報モラルを指導するために

ア 近年、携帯電話からインターネットに接続が可能になったことや、家庭にインターネット接続可能なコンピュータが普及したことにより、インターネットを介して様々な事件が起きている。被害者の多くが未成年者であり、中学生にインターネットとどのように付き合い合っていくかを教育する必要がある。しかしながら、学校現場では情報モラ

ルについて全教員が指導できるわけではない。クラス担任や教科担任の個々の能力に依存し、うまく指導できていない現状がある。このことから、情報モラルグループでは、どのような資料を準備すればコンピュータを苦手とする教員でも情報モラルについて指導ができるのかについて考えた。

② 資料の収集とその特徴

本グループで各自が活用できる資料がないかを調べた。部会で持ち寄った結果、

A：NHK 10min 情報・モラル

B：警視庁サイバー犯罪対策室情報セキュリティ対策ビデオ

C：MIAU インターネットリテラシー読本「ネットとうまく付き合うために」等が挙げられた。ここでは上記の資料の特徴を述べる。

ア NHK 10min 情報・モラル

NHK 10min 情報・モラル(以下10min と略記)は、必要な情報が10分間の動画で保存されており、Webサイト「NHK 10min ボックス」から視聴することができる。また、NHKの各支局から10minを収録したDVD等をレンタルできる。学校教育で活用することを目的として作られているため、Webページには先生用ページが用意され、関連する内容の資料もリンクづけされており、使いやすい。

イ 警視庁サイバー犯罪対策室情報セキュリティ対策ビデオ

警視庁サイバー犯罪対策室情報セキュリティ対策ビデオ(以下サイバー犯罪対策ビデオと略記)は、Webサイト「警視庁サイバー犯罪対策」から実際に起きているネット犯罪を例に、約40分の映像で編集されている。ビデオは数本あるため必要な物を選択可能である。また、掲載しているWebページには、サイバー犯罪に関するトピックやニュ

ースを取り上げているため、ビデオのみならず参考資料として活用できる。サイバー犯罪対策ビデオは各都道府県の警察本部からレンタルすることも可能である。

ウ MIAU インターネットリテラシー読本「ネットとうまく付き合うために」

MIAU インターネットリテラシー読本「ネットとうまく付き合うために」(以下リテラシー読本と略記)では、Web ページからPDFまたはLZH、ZIP形式でダウンロード可能な読み物資料であり、クイズ形式の問題や、4コマ漫画を含み、それぞれに指導のポイントが付属している。これらは version1.0 から version1.3 までいくつかの種類があり選択可能である。

③ 資料の検討

これらの資料をグループで検討した。学校で教育利用する場合、個々の能力に左右されず、同じように質の高い指導ができなければならない。こうした意見をもとに考えると視聴覚機器を操作する等を苦手としている教員でも取り扱うことができ、指導のポイントの解説が付属しているという点から、MIAU インターネットリテラシー読本「ネットとうまく付き合うために」が適していると考えられる。

④ まとめと今後の課題

今年度、情報モラルグループではコンピュータを苦手とする教員でも情報モラルについて指導ができるであろう資料を検討した。今後この資料を用いて情報モラル授業を行い、その成果や課題について調査する必要がある。

参考文献

- 1) NHK 10min 情報・モラル
<http://www.nhk.or.jp/10min/joho/ja/frame.html>
- 2) 警視庁サイバー犯罪対策室情報セキュリティ

対策ビデオ

<http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html>

3) MIAU インターネットリテラシー読本

<http://miau.jp/1220754558.phtml>

(3) 情報教育グループ

① テーマと設定理由

本年度の情報教育グループは、「授業に活用できる映像教材の充実」をテーマに、研修、研究を重ねた。視覚や聴覚に訴えることのできる映像教材は、生徒の興味・関心を高め、学習の理解を助け、深めることができ、非常に有効である。それらを充実させ、気軽に活用できる環境をつくることで「生徒に分かりやすい授業ができる」「生徒の学習意欲の向上が図れる」「教員の教材づくりの負担軽減につながる」と考えた。また、地上デジタル化に伴い、メディア機器が各学校に充実してきており、それらを十分に活用していきたいという狙いも含めて、本テーマを設定した。

② 実践内容

NHK 教育番組には、教科指導に限らず、道徳や総合的な学習の時間にも映像教材として活用できる番組が非常に多い。それらを有効に活用できないかという話からスタートし、教材に利用できそうな番組をピックアップした。

ア 活用可能な教材としての番組

「10min. ボックス現代文」(国語)

「ダーウィンの動物大図鑑

はろ〜! あにまる」(理科)

「10min. ボックス日本史」(社会)

「10min. ボックス職業ガイダンス」
(総合)

「道徳ドキュメント」(道徳) 等

NHKのWeb ページによるオンデマンドについては、登録手続きや利用料の問題等で研修時に視聴することがで

きなかったので、各学校や各部員の家庭のデッキを用いて番組の録画を行い、DVDを作成した。

③ 成果と課題

授業に映像教材として生かせる番組を多くの先生方に知ってもらうとともに、それらを録画して有効に活用できるようにすることを目標に取り組んだ。114もの番組を候補に挙げ、18番組については実践できたことは成果である。それらをライブラリー化し、多くの先生方に知っていただくところはまだできておらず課題である。また、オンデマンドの利用には登録等の必要があったり、録画した番組には著作権やコピー制限があったりして活用しにくかった面も明らかになった。希望としては、総合教育センターなどの教育機関が中心となり、例えばNHKなどの放送局と連携を図りながら、映像教材の開発を行い、メディア教材ライブラリーを設け、それらをネットワーク等を介して著作権の問題なく多くの教員が教材として利用（貸し借り）できるシステムの構築が挙げられる。

5 今後の課題

本年度も昨年度同様に3グループでの活動としたが、予定の成果を上げたと思っている。来年度も教員のスキルの向上、授業での実践、情報モラルを中心に保護者との連携を図れるような取り組みを行いたいと考えている。また情報教育グループの熱心な取り組みにより、平成24年度の放送教育高知大会の発表に向けた実践研究や資料づくりが大きく前進した。今後も研究と実践を積み重ね、メディア教育を盛り上げていきたいと考えている。